

## 本書の使い方

### ◆学習を始める前に……こんな人に手に取って欲しい

みなさん、古文の学習は進んでいますか。

「古文の学習を始めようという人」

「今一度原点に立ち戻って、基礎固めをしたい人」

そういった人は、この本をぜひ手に取ってください。

一冊通して学習すれば、「力がついた」と実感できるでしょう。

入試問題と比べて簡単な内容に思えるかもしれませんが、本書で学習したことは必ず入試の役に立つことをお約束します。

### ◆本書の構成とねらい

本書は、**学習の準備**(3講座)と**古典文法の学習**(28講座)から構成されています。

**学習の準備**では、古文の学習に必要な基礎的な、「品詞」「接続・活用形」「係り結び・音便」を学習します。どれも、この後の学習に必要な「基本中の基本」といってよい知識です。入念に準備してください。

**古典文法の学習**では、「動詞」「形容詞」「形容動詞」「助動詞」「助詞」「敬語」をそれぞれ基礎的な内容から学習し、最後に古典文法の理解が解法の鍵となる「識別」を学習できるように構成してあります。

なお、巻末には、付録として「敬語の要点」「助動詞活用表」「助詞一覧表」をつけてあります。接続や活用を確認したい時などに活用してください。




### ◆学習の手順

各講座は、「古典文法の学習を始めたばかり」であっても、無理なく内容を理解できるように組み立てています。次の手順で学習し、わからなくなったらすぐに前に戻って内容を見直しましょう。そして、必ず一冊すべてをやり切りましょう。

① まず、赤枠で囲まれた箇所を読みましょう。この講座で学ぶべき重要な内容とポイントが簡潔にまとめられています。

② 一通り読んだら、すぐ下の**確認問題**に取り組みましょう。確認問題は赤枠内の記述内容と照らし合わせながら解答できるような問題を設定しています。一通り解答したら答え合わせをし、内容をよく確かめてください。**確認問題**の解答は、各講座の末尾に示してあります。

③ 確認問題を終えたら、**練習問題**に取り組みましょう。実際の入試問題などからよく問われる基本的なものを精選のうえ、出題しています。問題につまづいてしまった時は、赤枠内の記述を再度確認して知識を整理しましょう。

④ 練習問題を終えたら、別冊の解答解説で答え合わせをしましょう。上段が解答、下段が解説になっています。正解した問題も正解しなかった問題も、解説はしっかり確認しましょう。解説には正解を得るために必要な知識や、正解の根拠が書かれています。必要があれば別の講座の解説も読むようにしましょう。理解ができれば、その講座の学習は完了です。理解度に応じて、タイトルの下の  のマークをぬりましょう。